

会議録

1. 開会

2. 話題

(市長)

皆さん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、また、このところ暑さが厳しい状況ではありますが、定例記者会見第1回目の開催となります。記者会見にお集まりいただきありがとうございます。

皆さんからいただいた質問内容も含め4項目について、お話ししたいと思います。

まず、1点目はラピダスの関係であります。

8月2日、鈴木北海道知事をはじめ、道内の産学官の関係機関のトップの皆さんと一緒に、半導体関連産業の先進地である熊本県を訪問しました。市からは私を含め担当と千歳科学技術大学の宮永学長にも同行いただきまして、熊本県と北海道との連携協定の締結式に同席させていただいたほか、熊本大学など関係機関を訪問しました。

その中で、本市としましても、立地自治体として今後の連携について意見交換をさせていただきました。これを機に、様々な分野において、相互の連携交流が一層進み、両地域の活性化が図られることを期待しております。

千歳美々ワールドにおいて、ラピダス社が進める次世代半導体製造工場の建設については、6月から土地の造成、伐採等が始まっております。

先日、私も現地を訪れまして作業状況を確認したところであります。9月の建物着工に向け、順調に作業が進捗しております。

9月1日には、起工式及び起工披露式典が予定され、私も参加させていただき、工事の安全と円滑な進捗を祈願するほか、本市はもとより、北海道における半導体関連産業振興に向けた、機運醸成の機会になることを期待するものであります。

また、本市におけるインフラ整備の状況については、パイロットラインの立ち上げに向けて、上下水道及び道路の整備にかかる設計に着手したほか、電力、ガス供給事業者等との調整を行っているところであります。

さらに、その後の量産体制に向けた用排水の確保については、北海道において、過日、有識者懇話会の設置を決定し、供給方法やスケジュールなどについて、専門家からの意見も取り入れながら検討を進めるとしたところであり、引き続き、2027年の量産体制の立ち上げに向けて、国、道、市、ラピダス社と協議を進めてまいります。

次に、2点目の「道の駅サーモンパーク千歳のグランドオープン」についてであります。お手元に資料がありますのでご覧ください。

はじめに、日程についてであります。グランドオープンは9月上旬を予定しておりましたが、開業の準備が整ったということで、8月26日土曜日 午前9時のグランドオープンとなりました。

これに先立ち、本日午前中、指定管理者においてメディア内覧会を実施し、現在はプレオープンとして、主に地域の方を対象に営業を開始しております。

次に、「オープニングセレモニーの概要」については、グランドオープンの8月26日午前9時から、道の駅サーモンパーク千歳の正面玄関前にて予定しております。

当日は、市議会、札幌開発建設部、関係機関・団体等の来賓によるテープカットなどを予定しております。

「オープンフェアの概要」につきましては、グランドオープン当日の8月26日から31日までの間、農産物の特価販売や、記念品の配布などが予定されております。

次に、「運営の概要」についてであります。休業日は「年中無休」としており、営業時間については、表に記載のとおりとなっております。

写真を何点かご覧ください。(道の駅の写真のスライドショー(6枚))物販関係、また

農産物については外回りのテントも含めかなりの量、また食事の関係も、当道の駅の特徴を踏まえたオリジナルの商品も開発していただいたということです。

今後、特にサケの遡上シーズンを迎え、多くの来場者が見込まれますことから、地元の食材を生かした飲食・物販の展開など、指定管理者にはノウハウを生かした魅力的な施設運営を行っていただき、サーモンパークを盛り上げていただくことで街の賑わいの創出につながることを期待しております。

市といたしましても、道の駅で特産品のPRイベントを開催するなど、指定管理者と連携し、本市の観光拠点として、魅力ある施設づくりにこれからも取り組んでまいります。

次に、3点目の「千歳相互観光バス」についてであります。

以下、相互バスと呼ばせていただきますが、本年5月16日、相互バスでは、労働組合の記者会見において、「認定工場以外の整備工場で分解整備している。」との指摘があったことを受け、事実確認を行い、北海道運輸局に届出を出されたところです。

北海道運輸局におきましては、現地監査の結果、相互バスに対し警告書を交付したところでありますが、同局からは、「事業者に対して、法令を遵守するよう指導するとともに、今後、定期的に法令が遵守されているか、確認する」との方針を伺っております。

また、相互バスによる、産業廃棄物の敷地等への埋設につきましては、本年6月5日の、同社と労働組合との団体交渉の場において、組合から「平成16年頃、敷地等に産業廃棄物を埋めていた。」との指摘があったことを受け、同社が現地を掘削、確認したところ、産業廃棄物が埋設されていたことや、埋設場所の一部に市有地が含まれていたことが明らかになりました。

この産業廃棄物への対応については、北海道の指導のもと、適正に処分されたところであり、その後、北海道は、相互バスに対し、法令を遵守するよう指導を行っているところであります。

市有地に産業廃棄物が埋められていたことへの市の対応としましては、確認後、同社が

すぐに撤去作業を行ったことに加え、今後、許可無く使用しない旨の確認がとれたことから、今回については、口頭注意を行うとともに、市のパトロール時や草刈りなどの作業の際に確認を行うなど、市有地の適正な管理に努めてまいります。

さらに、これら一連の件について、相互バスに対して、「法令遵守の徹底」や「市民の安全・安心に資する事業運営を行うこと」、「公共交通事業者としての社会的責任の下、安定運行に努めること」を求め、文書で要請したところであります。

相互バスからは、法令の遵守を徹底し、二度とこのようなことが無いよう、謝罪があったところであります。

今後、運輸局の指導のもと、安全性の確保がなされるものと考えておりますが、市としても、事業者に要請した内容が適切に守られているか、運輸局や事業者との情報交換をしてまいりたいと思っています。

次に、相互バスとその労働組合による「団体交渉」につきましては、かねてから、労働組合側が従業員の待遇改善等を求め、交渉が行われているところであり、現在も続いていると伺っております。

市といたしましては、団体交渉等は、労働者の権利として憲法で認められているものであり、市が介入する立場にはないものと考えておりますが、ストライキになった場合、市民の足に影響があることから、継続して情報収集に努めるとともに、事業者側に対し、良好な労使関係を築くよう、申し入れをしたところであります。

次に、市からバス事業者への補助金につきましては、「市民の日常生活に不可欠な定期バス路線を確保し、市民生活の利便を図る」ことを目的として、要綱に基づき、バス事業者に対し、人件費や燃料費等の運行に係る経費の赤字分について補助するものであります。申請された内容については、弁護士や会計士等の有識者で構成する「千歳市路線バス補助金審議会」に諮り審査しており、適正に交付しているものと考えております。

今後も補助金につきましては、要綱に基づき適切に対応してまいります。路線バスは、まちづくりの根幹を支え、通勤・通学や通院、買い物など、市民の日常生活に必要不可欠

な移動手段として、極めて重要な社会資本でありますことから、今後につきましても、市民の安全・安心な路線バスの安定運行に努めてまいります。

最後に、4点目の「協和地区の産業廃棄物最終処分場建設計画」についてであります。

現在、札幌市内に本社を有する事業者が、東千歳地区の千歳市協和1393-2外(ほか)の自社所有地77haに、産業廃棄物を埋め立て処分することを目的とした、最終処分場の建設を計画中であります。

法律の関係を触れさせていただきますが、「産業廃棄物の最終処分場」の設置については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、いわゆる廃掃法ではありますが、都道府県知事が許可することとなっており、許可権者である北海道では、「北海道循環型社会形成の推進に関する条例及び要領」に基づき、「最終処分場」の設置を計画する事業者に対し、許可申請前に、施設の設置等について必要な事項を記載した「事業計画書」の提出を求めることとしております。

「事業計画書」については、「施設の周辺地域の生活環境に及ぼす影響に十分配慮すること」や「施設の周辺住民の理解を得るよう努めること」また、主要な事項としましては、「施設から500メートル以内の居住者の同意」や「地域住民への説明会の開催」のほか、「市との協議」を行うこととなっております。

本年3月6日には、事業者による協和地区を含む、新川、幌加、東丘の東千歳地区を対象とした地域住民への説明会が開催され、当日参加した住民約1,00名からの質問や意見は、全て反対や不安に関するものでありました。

また、7月18日には、東千歳四連合会が市に提出した「令和5年度東千歳地区地域要望書」の中で、「協和地区に建設が予定されている産業廃棄物最終処分場について、臭気や排水に対する不安、さらには東千歳地区への風評被害が懸念されるため、東千歳地区としては、当該施設の建設を断固反対する。」とした要望を受けるとともに、建設予定地を視察し、地域の方からの声を伺っております。

7月25日 東千歳四連合会は（施設建設の許可権者である）北海道知事及び北海道議会

自民党、道民会議宛に、「産業廃棄物最終処分場建設反対に関する要望書」を提出しております。市では、住民説明会や、北海道への要望書の提出などの際には、複数の関係部署がオブザーバーとして参加しており、地域の意見の聞き取りや、北海道との調整等を行ってきております。

市といたしましては、引き続き、各部署が連携し、周辺地域に及ぼす影響や課題などを把握するとともに、北海道や事業者に対し、北海道の条例及び要領に基づき厳正に手続きや審査を行うことや、地域住民に対して丁寧な説明を行うことを求めるほか、東千歳地域の意向をよく北海道へ伝えてまいります。

私からは以上であります。

3. 質問及び意見交換

(記者)

ラピダスの関係で伺いたいです。9月1日に工場建設が着工しますが、期待や受け止めについてコメントをお願いいたします。

(市長)

4月27日 市長に就任して、4か月が経ちました。この間、まずは、喫緊の大きな課題であるラピダスの受け入れ環境、特にインフラ環境を速やかに対応していく中で、いろいろなところと協議を進めてきたところであります。また、様々な方々が千歳市内に入ってくる中で、衣食住の特に食と住に関しましては、ラピダス社自身が仮設的に用意するものの他に、民間の皆さんのご支援もいただきながら対応できるように考えていかなければならないと思っています。その後について、今回の立地について、街への波及効果、立地を街の発展にどう生かしていくかを常に考えていたところです。いよいよ9月1日に杭打ちが始まるということで、スピード感をもってこれからも取り組んでいきたいと思っています。9月1日は思いを新たに、そういう節目になると考えています。

(記者)

市役所の役割として関係機関との調整も含めいろいろとあると思いますが、特に優先して取り組んでいかなければいけないことなど、現時点で考えていることはありますか。

(市長)

どれも優先して取り組むべきことだと思います。時間軸の違いはそれぞれありますが、どれも同時並行で進めていかなければなりません。ただ、皆さんが関心を持っているのは、受け入れ体制やどのようにインフラ対応が行われるのかという部分であると思います。いずれにしても、今後につきまして、時間がかかる部分、例えば、街づくりのいろいろな分野への波及効果など、今まさに、同時並行で進めていくということが課題だと思います。

(記者)

今後のラピダスの工事の進捗により、工事関係者も含めいろいろな方々が街に入ることによって街の変化などが見込まれますが、特に市として情報発信などを含め、このようなことをしていきたいなど考えていることはありますか。

(市長)

最終的には、今回6月の議会補正でご承認いただきました委託調査など、国内外に対してニーズ調査を行うこと、それをベースに、最終的には将来ビジョンというのを策定し、そのことをもって、市民の皆さまへわかりやすく発信するというのが大事だと思います。それまでの間にも必要な情報を市民の皆さんといろいろな手法、例えば、説明会なり出前講座なども含めていろいろな機会に極力発信していきたいと考えています。

(記者)

ラピダスの件ですが、インフラに関して、諸々調整中とのことですが、具体的にどれくらいの使用量を見込んでいて千歳市としてどれくらい不足しているのか何か話せることはありますか。

(市長)

既にオープンになっていますが、パイロットラインで必要になる部分、上下水道の部分、これと上水道、下水道については既に設計に着手をして、浄水については一日当たり4,000tということで、これは設計と工事一体化で迅速に試作ラインのタイミングに合わせて供給

と排水ができるようにしていくということでもあります。量産ラインの用水の使用量については、ラピダスの方で検討しているところではありますが、量産ライン稼働に向けた用水の供給について、引き続き、国、北海道、ラピダス社、市、4者で協議を進め、市として取り組む課題について対応していきたいと思えます。

(記者)

ラピダス進出に伴って、関連産業から千歳市に進出したいなどの問い合わせは何かありますか。

(市長)

数としては、相当数来ていると思っています。これはラピダスの半導体に関わらず、いろいろな企業の皆さんからも、進出の意欲を伺ったり、問合せも来ているということで報告が上がってきております。それに、今後いかに対応していくか、今、内部で鋭意検討しています。

(記者)

具体的な数、土地の面積だとかは言えますか。

(市長)

問い合わせだけの場合もあれば、まだまだ固定している部分でもありませんので、具体的には申し上げられませんが、相当数があるということです。

(記者)

サーモンパークについて、土曜日にリニューアルオープンするわけですが、前オーナーのシダックスさんと以前入っていた店舗さんで揉めているところもあると思います。具体的に言うとピザドゥさんです。今も建設費が支払われていなくて、営業再開できていないことに関しての市長の受け止めをお願いします。

(市長)

前の指定管理者から協定上の指定期間の満了日が3月31日でありますので、それをもって原状回復した施設の引き渡しを受けているところでもあります。今回、指定管理者の移行、そして引き継ぎにあたって不安な思いや、またその影響を受けたテナント様がいらっしゃ

ったという事実については、私としても承知をしておりますけれども、前指定管理者とのテナントとの建物の賃貸借契約、この中の補償という部分だと思いますが、その内容につきましては、双方が協議合意しているものであり、またその内容についても秘匿事項とになっていきますので、市が関与できる立場にはないと考えております。

(記者)

市が介入できないので、コメントも特にできるものではないということでしょうか。

(市長)

今申し上げたのがコメントということです。

(記者)

相互バスの件で、今回、不正整備がある中で、口頭での注意のみで市民の足を守る公共交通機関に対する行政の対応として甘いというふうに、利用者の方から声が出てきています。口頭での注意だけにとどまった理由は何かあるのでしょうか。

(市長)

今回、この事案事象は、確認された初めてのケースだったということもありました。また、それに加えて、今回、泉沢自然の森の敷地内ということになりますけれども、産廃の不法投棄、また許可なく敷地を利用していたことが確認された後の相互バスの対応について、一定程度、速やかに行われたということであり、また、その際の再発防止に向けた姿勢だとか考え方、これも確認できたということで、今回は口頭による注意ということになりました。ただ、今後は法令遵守を徹底することを、改めて明記して要請書を提出し、処理をしたわけですが、そのことを今後も情報交換を通じて確認していきたいと考えたところであり、そういう中で今回はそのような対応になりました。

(記者)

仮に、不法投棄や不正整備に対して改善が見られなかった場合、今後は市としてどのような対応が考えられますか。

(市長)

タラレバの話ではありますが、しっかり確認した上で、もし仮にそういう事情が発生した場

合、より厳正に対応したいと考えています。

(記者)

昨年度から、市から相互バスの方に 1 億円の補助金が出ていると思いますが、先ほど市長の話の中で人件費などの赤字の補填に使う補助金だとお話がありました。人件費や給料には使われず、会社側も使い道についてはよくわからないという回答がこちら側の取材でありました。その辺の話を詳しく教えてください。

(市長)

どういう場面で、そのようなお答えがあったのか私は把握していませんが、先ほど申しましたように、この補助金は市民の日常生活に不可欠な定期バス路線を確保し、市民生活の利便性を図ることを目的として制定をし、計上した補助金であります。その上で、千歳市の定期バスの運行に対する補助金交付要綱を制定しています。要項に基づき事業者の方から路線ごとに運賃等の経常収入、併せて人件費や燃料費等の運行に係る経費等の経常支出の資料を申請していただいております。申請資料について弁護士や会計士等の有識者で構成しています審議会に諮り、審査をしていただきます。経常収入から経常支出を差し引いた赤字分について、それを必要なものとして補填（補助）することにしていきますので、今後もあくまで補助金にこの要綱に基づいて対応してまいりたいという考えです。

(記者)

交付した後の具体的な用途までは追及しないということでしょうか。

(市長)

要するに実績確認するかどうかということでしょうか。

(記者)

はい

(市長)

申請書に基づいて、それは実績に基づいて計上して使われた費用の数字を申請していただいておりますので、それを審査し補助金を交付するということです。

(企画部次長)

基本的に運行するために必要な経費の赤字分に対して市は補助しますので、補助したものがどこに使われるかという用途までは決めていません。

(記者)

補助金を出す前に出た赤字に対して申請があるということですか。

(企画部次長)

それに対して赤字を補填する内容となっております。

(記者)

承知しました。

最後に相互バスの関係で、団交でストライキになると、市民生活にも影響があるというふうに先ほどお話を伺いましたが、今後また同じようなストライキが起きないように、市として、具体的にどういうふうに介入する可能性がありますか。

(市長)

介入については先ほども申しましたように、まずはこの団体交渉というのは、労働者の権利として、これは憲法上認められていることでもあります。したがって、介入自体はなかなか行政として難しいというのが率直な考えではあります。一方でそのことによって市民の足への影響というのが発生するというのは、決していいことではないと思っています。その大元となる健全な労使関係をきちんと早期に構築していただくことを、今現在もお願いしていますし、そのように考えているところであります。

(記者)

ラピダスの関係で関連の企業の間い合わせの話がありましたが、千歳市に進出する企業について、現段階ではまだそこまでの話にはなっていないということによろしいですか。

(市長)

はい。そのとおりです。

(記者)

9月から工事も本格化していろいろな方々が入ってくると思いますが、今まで、1,000人規模の宿舎を自前で建てることを明らかにされていると思いますが、それ以降、例えば作業員の宿舎についてや何百人規模の何かをつくるというようなお話は、市の方には入っていないのでしょうか。

(市長)

まず、先日、現地の事務所を見て参りました。例えば休憩場所、食堂など、そのような施設が建っていきます。

宿泊の話になるかと思いますが、それは自前で今回の施工業者さんである鹿島建設さんが臨空工業団地の入り口の方に一定の敷地を所有されていますので、そこに1,000人規模の仮設ハウスを作るということです。それからオーバーフローする部分、実際に恐らくこれから工程が始まってきて、最大数6,000人と説明会でも言われました。工程によってそれがどういう山になるか等、はっきりしたことはまだお聞きしていません。オーバーフローした分、市内の民間の皆さんがストックされているところに協力いただくなど、対応していかれるのではないかと考えています。これからも、その辺の情報は引き続き収集して参りたいと思っています。また民間の不動産関係の皆さんにもそこは情報共有しながら協力もお願いしたいと考えています。

(次世代半導体推進室長)

作業員の受け入れについてですが、鹿島さんの方で用意してくれる宿舎330ユニットの建物を3棟建設しています。これからどんどん作業員が増えてきます。

作業員の中には地元や近隣の方も多いので、近隣の方は当然ご自宅から通いますし、ご自宅から通えない方は宿舎に入ることになりますので、状態に合わせて対応していくようなかたちです。

(記者)

ラピダス受け入れの課題についてお話されていたのですが、まさに来月からいろいろなものが進んでいく中で、受け入れる自治体としての懸念材料は何だというふう考えていますでしょうか。

(市長)

これだけの国家プロジェクトで大きな案件でありますので、これをしかも短期間に相当タイトな日程で先ほども申しましたインフラ整備を初め、受け入れ環境が多岐にわたりますので、今までの行政サイドのスピード感にはないことが求められているということになります。それは課題であって、これは乗り越えていかなければならないものだと思っています。そういうような捉え方で工場の操業に影響がないように、主として取り組んでいきたいと考えています。

(記者)

ありがとうございます。

(記者)

市の人口政策についてお聞きしたいです。千歳市は現在約9万7,000人の人口で、2030年に10万人にする目標を掲げていますけれども、市長はこの前の議会で人口ビジョンの見直しを検討するという考えを表明されたと思います。

ラピダスの関係もありますが、改めて人口政策、なぜ大事なのかという位置づけと、見直しに向けどのようなテーマを重視するかということを知りたいです。

(市長)

議会でも答弁させていただきましたが、やはり一番前提となる考え方として、街の発展を示す一つの目安であり、重要な要素になるものが人口だと思っています。人口が伸びることによって、街のいろいろな活動につながっていきます。例えば市民活動であり、経済活動であり、さまざまな活動にあらわれるということでもあります。人口というのはそういう大事な要素だと私は捉えています。

その中で、今10万人ということを目指しています。その前には9万5,000人さらに9万8,000人、そして10万人ということになります。これは一つの数字ではありますが、それに向かってみんなで取り組んでいく、目標達成に向けて取り組んでいく中で、いろいろな取り組みを行っていくことが大事だと思っています。そのことが市民生活の底上げ向上につながり、その先に人口目標というのは見えてくると思い、人口戦略プランを一生懸命取り組んでいくところであります。一方で、今回ラピダスの関係もありますが、ずっと右肩上がり

人口がこれまで 40 数年ぐらい増加をしてきました。しかし、この 3 年間のコロナというのは大きな影響があり、空港の利用者の減少、空港での従業員の皆さんの数も、一時、9,000 人くらいいらっしまったのですが、1,000 人以上落ち込んで来ているということであり、その内 60%ぐらいが千歳市民でもありますので、市内の人口にも大きく影響したところがあります。最近のデータでは、それがかなり回復してきています。8,500 人近くまで今現在回復してきているということでもありますので、そういう部分では少しずつコロナにおける影響が戻りつつあります。そのようなデータを積み上げながら、また今回のラピダスの関係についても今後調査をかけて分析をし、それからさらに、例えば、単身者が来られるのか、世帯者が来られるのかで大きく違いますので、そのようなことも推計しながら、データの積み重ねによって人口をある程度推計していき、都市計画の大元となります。それに向かって作業を進めていきたいと考えております。まずは今の目標が早期に達成されるよう努力して参りたいと思っています。

(広報広聴課長)

最後に PR をさせていただきたいと思います。市長の公式インスタグラムが始まりました。既に、ご覧になった方もいると思いますが、ぜひ報道の皆様にもご活用いただければと思います。よろしければ、周知などもしていただけると幸いですのでお願いいたします。

4. 閉会